

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画 中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「未来に挑む自分を創る」 夢を描き、自信を持って意 志を伝える力の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命)	小中一貫教育を通して、未来への展望を持ち 「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」 の根っこを育てる。
			<ビジョン> (将来の学校像)	・ 学習活動や行事が充実し、仲間と学ぶ楽しさがあふれる学園 ・ 子どもの夢や希望を生み出し、実現させる学園 ・ 地域・社会に貢献する実践的行動力のある学園

c 中期経営目標 を踏まえた現状 (進捗状況)と今 年度の重点	【現状 (○成果●課題)】 ○ 小中一貫教育を推進する組織体制を築いており、小学校と中学校が共通の目標の下、研究を進めている。 ○ 教科の本質を追究した「考える授業づくり」に向けて組織的な取組を進めている。 ○ 地域における学園の存在意義を教職員・児童生徒・保護者が共有し、地域と一体となった教育活動を目指して いる。 ● 各学力調査において課題が見られる。 ● 学力調査や公立高等学校入試選抜を見据え、15歳の生徒に身に付けておいてほしい力の向上に向けて小中 学校で系統的に進める必要がある。 ● 児童生徒の実態を踏まえ、生活習慣・学習習慣の改善に取り組む必要がある。 上記の現状より、次の5点を今年度の重点とする。 ① 未来に貢献する「未来に挑む自分を創る」(資質・能力を培う)ための主体的な学びを推進する。(確かな学 力) ② 誰もが安全で安心して学べる教育環境を確保する。 ③ 健康で生きがいをもって生涯を生き抜くため、生活習慣の基盤づくりをする。 ④ 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整備する。 ⑤ 小中一貫教育校として新たな価値を創造する学校組織を構築していく。
	育成すべき資質・能力

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標 値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	未来に貢献できる 「未来に挑む自分 を創る」資質・能 力を育むため主体 的な学びを推進す る。	「考える授業」 づくりを進め、 生徒の学力を向 上させる。 責	・ 警固屋学園授業スタイルでの授業の実践 ・ 校内研究授業の実施	・ 9年生の実力試験の得 点の地域平均との差	+3 点	国 -1.4 社 +1.3 数 -4.7 理 -1.1 英 +0.6	国 97% 社 103% 数 90% 理 98% 英 101%	B			
主体的に学び伝え合う授 業展開の実施			授業では、友達と話し合 うなどして自分の考えを 深めたり広げたりする。	90%	73%	81%	B				
個の実態に応じた学力の定着を 図る。			・ 基礎的基本的な学習の 徹底 ・ ICTを活用した習 得、活用の授業展開 ・ 読書に親しみ、豊かな言 葉に触れさせる。	標準学力調査無回答0 ・ タブレット端末を活用 するのは勉強に役立つ と考える生徒の割合 1か月の間に本を1冊も 読んでいない生徒の割合	90% 90% 10% 以下	92% 100% 100%	102% 122% 100%	A A A			
**	だれもが安心・安 全な環境で学べる 学校風土を醸成す る。 責	地域の課題を考 え、地域に貢献 する生徒を育成 する。 いじめを許さ ず、互いに認め 合うことができ る集団をつくる。 基本的生活習慣 を定着させる。	・ 学期に1回の防災訓練 を充実させ、当事者意識 等を持たせる。	・ 訓練後のアンケートの 当事者意識の項目につい ての肯定的回答の割合	100%	100%	100%	A			
・ 一人一役を意識した集 団づくりの推進			・ 自己肯定感についての アンケートの肯定的な回 答の割合	80%	76%	95%	B				
・ 課題への組織的な対応 と体制の確立			・ 「いじめアンケート」 の肯定的回答の割合	100%	100%	100%	A				
*	教職員が自らの意 欲と能力を発揮で きる教育環 境の整備 責	在校等時間の縮 減 生徒と向き合う 時間の確保	・ 水曜日の定時退校日の 徹底 ・ 退校時刻(夏: 18:30、冬:18:00)の徹 底	・ 時間外在校等時間が、 月45時間以内の教職員の 割合	80%	63%	79%	C			
・ 組織的なベテラン教員 による若手教員の人材育 成 ・ ICTの活用等により 業務の効率化を図る。			・ 生徒とふれあう時間が 確保できている教職員の 割合	100%	78%	78%	C				